

『天空の城ラピュタ』

岡野内 正

「バルス！！」

主人公の少年少女が二人で声を合わせて、滅びの呪文を叫ぶ。…とたんに、ハイテク技術の粋を集めた、天空に浮かぶ要塞ラピュタがバラバラと崩れ始める。封印されていた伝説の高度技術文明の崩壊である。少女は、その王族の生き残り。別の生き残り男性が、少女を脅してラピュタの封印を解かせ、最強の技術を手に入れた瞬間、少女は、自分の命とともに、技術を永遠に葬り去ろうとする。少年は鉱山で働くただの少年だが、たまたま出会った少女の心意気に共感し、やはり自分の命も顧みず、彼のほうから滅びの呪文の使用を提案したのだ。…このへんでこっちは、もう涙ぼろぼろ。

さて、福島原発事故後にこれを見ると、ラピュタを天空に浮かばせた全技術の原動力の青く光る「飛行石」は、どうみても濃縮された放射性物質。滅びの呪文を叫ぶ二人は、20世紀半ば以後、すでに大国支配者が入手して大量殺戮に使ってきた原発と核兵器の現代文明（詳しくは私の訳本、ヘレン・カルディコット著『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2009年参照）を、葬っているように見える。…こうなると、こっちの涙は、夢の技術をきっぱり捨てる二人への羨望の涙。はたまた、いまだ日本列島から原発さえなくせない悔し涙。

でも、待って。私たちもあの二人のようにできるかも。ヒントは、大地の自然と、いい仕事にかけける働く仲間の心意気。少女を育てたのは、すてきな大地の自然だし、少年も、鉱山の奥深く潜って、大地の恵みを掘り出す暮らしに育てられた。そして、海賊や軍隊から二人を守ったあのすてきな鉱山町の仲間たち。…大地の自然を離れず、大地の自然に恥じない仕事をする仲間の絆を深めよう。あとは、勇気をもって人の仕事の成果を横取りする人たちと闘えばいい。そんなメッセージが伝わってきて、こっちの涙は、勇気を得たうれし涙に変わる。…さあ、現代殺人文明に滅びの呪文を。ばあやが文句を教えてくれなかったので、大学で研究するしかない！（2013年2月11日）